

令和 7 年度 第 1 回 沼津市自転車活用推進協議会

- (1) 沼津市自転車活用推進計画における
令和 7 年度の実施状況について**

【本計画策定の背景】

- ・本市は豊かな地域資源に恵まれ、さらにはサイクリングに適した自然環境を有している。
- ・市街地部では、自転車利用に適した平坦である特性を活かし、これまでも自転車に関する様々な取り組みや自転車利用環境の整備等を継続し、進めてきた。
- ・一方、今後さらなる通行空間の整備、自転車の通行ルールやマナー浸透不足に伴う自転車関連事故、多様な環境づくり等解決すべき課題がある。
- ・このため、自転車施策を総合的に展開していくことを目的とし、沼津市自転車活用推進計画を策定した。

沼津市自転車活用推進計画策定

(令和3年3月策定)

【基本方針】「住みたいまち、行きたいまち。」
～自転車利用環境の向上により、選ばれるまちへ～

【計画期間】

10カ年（令和3年4月～令和13年3月）

本市における自転車に関わる課題の解決施策パッケージ
”プロジェクト6”の事業期間を10年に設定

【計画目標】

- ①自転車利用環境の充実による安全性の確保
- ②移動の利便性向上による過度な自動車への依存の低減
- ③自転車の活用による健康の増進
- ④サイクルツーリズムの推進による交流人口の拡大

I. 自転車通行空間整備推進プロジェクト

II. 自転車安全利用促進プロジェクト

III. 良好な都市環境の形成プロジェクト

IV. ヒト中心のまちづくり連携プロジェクト

V. おでかけサイクリングプロジェクト

VI. 魅力的なサイクリング、
サイクルツーリズム創出プロジェクト

自転車文化の醸成
ライフスタイルの浸透

【自転車に関わる現状・課題と対応の方向性】

課題1 安全・安心

安全安心な自転車通行空間の整備推進、
ルール・マナーの周知徹底

課題2 都市環境

多様な移動手段の確保と利便性向上、
まちづくりと一体となった駐輪場等の包括的なマネジメント

課題3 健康・運動

日常生活における自転車利用の意識の醸成ときっかけづくり

課題4 観光振興

サイクリストの受入環境の整備、地域資源を活用した仕掛けづくり、
県のモデルルート等を活かした広域的な連携



自転車文化とは・・・

日常の移動の中で、自転車が交通手段のひとつとして利用され、
まちに溶け込み、安全に安心して楽しく利用できること。
加えて、自転車の活用について、多面的に理解されていること。



沼津市自転車活用推進計画の目標を達成するための事業

◎：完了 ○：一部完了・継続して実施中 △：検討中 ×：未着手

	プロジェクト外	No	措置内容	令和 7 年度 取組計画
目標 1	I 自転車通行空間整備推進	1	沼津市自転車ネットワーク計画等に基づく自転車通行空間の整備	自転車通行空間の整備 3路線(1.40 k m)
自転車利用環境の充実による安全性の確保		2	自転車を利用しやすい環境の整備	自転車通行空間の整備と併せ、街路灯の整備を実施（歩道照明 12 基）
		3	自転車通行空間の適正な維持管理	舗装修繕を584m実施。
		4	自転車通行空間上の違法駐車取締りの推進	年度内において 7 2 回（6 回／月）実施予定。
		5	ゾーン30や狭さく等による安全対策の実施	短期対策は完了。地元と意見交換を行い効果を検証。
		6	無電柱化と合わせた自転車通行空間の整備	順次道路改良工事（無電柱化）を実施。

沼津市自転車活用推進計画の目標を達成するための事業

◎：完了 ○：一部完了・継続して実施中 △：検討中 ×：未着手

	プロジェクト	No	措置内容	令和7年度 取組計画
目標 1	Ⅱ 自転車安全利用促進	7	世代に応じた交通安全教室の開催	「交通安全リーダーと語る会」（小学校）や「自転車マナー向上対策」（中学校・高等学校）といった交通安全教室を実施。
自転車利用環境の充実による安全性の確保		8	自動車との共存に向けた相互理解の促進	静岡県交通安全協会沼津地区支部や自動車学校と協力し、ドライバーに対し講習を実施。
		9	沼津市高校生自転車マナー向上委員会による自転車マナー啓発活動の推進	委員会と協力し、1か月に1回早朝または夕方に街頭指導・広報を実施。
		10	自転車の走りやすさや安全性に関するマップの作成と発信	各小学校でマップの作成及び掲示することで小学生に対する意識向上を図っていく。
		11	市役所職員の自転車の交通に対するモラルの向上	通勤時における職員のヘルメット着用状況については、着用促進を図っていく。
		12	5月の自転車月間における自転車利用の啓発促進	広報ぬまづやポスター掲示により「自転車月間」の周知を行い、シェアサイクルクーポンの配布により乗車機会の創出を図った。
		13	自転車点検実施の推進	自転車軽自動車商業協同組合沼津駿東支部と協力し、無料で点検の実施。

沼津市自転車活用推進計画の目標を達成するための事業

◎：完了 ○：一部完了・継続して実施中 △：検討中 ×：未着手

	プロジェクト外	No	措置内容	令和 7 年度 取組計画
目標 2 過度な移動の利便性向上による 自動車への依存の低減	Ⅲ良好な都市環境の形成	16	自転車と公共交通の相互利用の利便性向上	これまでに続き大平小山バス停にサイクル&バスライドを設置。既存の駐輪場、バス停を活用しサイクル&バスライドについて周知を図る
		17	公共用地・民地・鉄道駅等へのシェアサイクルやレンタルサイクルポートの設置検討	市内シェアサイクルステーションの配置について検討。
		18	駐輪場の運営管理及び放置禁止区域の見直し	安全安心に利用できるよう管理運営を実施。
		19	市民に対するエコ通勤の呼びかけや事業者における自転車通勤制度導入に向けた働きかけ	企業向け情報メールやSNSを活用し、エコ通勤にかかる周知を行う。
		20	市役所職員の近隣公務における公用自転車の利用促進	窓口にて近隣公務での自転車利用を促進。
	Ⅳヒト中心のまちづくり連携	21	まちなか及び周辺地域資源を徒歩・自転車・公共交通で訪れてもらう取り組みの検討	交通DXアプリについて周知を行い、市内回遊性の向上を図る。
		22	沼津市中心市街地まちづくり戦略と連動した自転車通行空間の検討と駐輪場の配置検討	駅周辺の整備に合わせ、中心市街地まちづくり戦略と連動した自転車等駐車場の配置を検討する。
		23	移動が楽しめる新たなモビリティツールの活用検討	令和4年度に実施した実証実験結果を踏まえ、新たなモビリティツールについて検討する。

沼津市自転車活用推進計画の目標を達成するための事業

◎：完了 ○：一部完了・継続して実施中 △：検討中 ×：未着手

	プロジェクト	No	措置内容	令和7年度取組計画
目標3	Ⅴおでかけサイクリング	24	ぬまづ健康マイレージをツールとした自転車利用の促進	リーフレットにて自転車利用を促進。
よる自転車の健康の活用増進に		25	市役所職員の率先した自転車通勤・自転車移動の促進	庁内電子掲示板にて自転車利用を促進。
		26	自転車の魅力、楽しさ、健康効果の周知啓発およびイベント・講習会の実施	自転車の魅力を周知啓発するイベントの開催を検討する。
		27	地域の自転車クラブの創設促進	関係機関と協議を実施。
目標4	Ⅵ魅力的なサイクリング、サイクルツーリズム創出	28	広域連携によるサイクルルートのブランド化の推進	サイクルルートの周知・誘客を図る。
推進による交流人口の拡大		29	地域資源を活かした多彩なサイクルコース・観光プランの造成による誘客の促進	イベントの開催により自転車愛好者等の誘客を図っていく。。
		30	サイクル拠点の整備促進	NUMAZUサイクルステーション静浦東の整備に向け、調整を進める。
		31	官民連携によるサイクリスト受入環境の向上	バイシクルピットによるサイクリスト受け入れ環境の向上を促進。
		32	情報発信ツールの作成	サイクリングマップの配布や、新たに制作したレンタサイクルを利用した市内観光を推奨するSNS用動画を魅力発信ツールとして活用する。
		33	国内外への情報発信の強化	SNS等にて情報発信。

令和 7 年度 第 1 回 沼津市自転車活用推進協議会

目標 1 . 自転車利用環境の充実による安全性の確保

【 Do 】 目標達成に向けた令和 7 年度の具体的取組

施策シート

目標 1. 自転車利用環境の充実による安全性確保

目標 4. サイクルツーリズム推進による交流人口の拡大

I. 自転車通行空間整備推進プロジェクト

VI. 魅力的なサイクリング、サイクルツーリズム創出プロジェクト

措置	1. 沼津市自転車ネットワーク計画等に基づく自転車通行空間の整備
事業内容	・自転車ネットワーク計画に基づき、通勤・通学・買物等の日常的な移動や観光・レクリエーション等で、安全・安心・快適に自転車を利用できるよう、自転車通行空間の整備を効果的、効率的に推進します。
実施主体	市担当課：建設デザイン政策課、道路建設課

実施スケジュール（○：検討 ●：実施）

R 3 年度 2 0 2 1 年度	R 4 年度 2 0 2 2 年度	R 5 年度 2 0 2 3 年度	R 6 年度 2 0 2 4 年度	R 7 年度 2 0 2 5 年度	R 8 年度 2 0 2 6 年度	R 9 年度 2 0 2 7 年度	R 1 0 年度 2 0 2 8 年度	R 1 1 年度 2 0 2 9 年度	R 1 2 年度 2 0 3 0 年度
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

R 7 取組内容



- 市施工
 - ・実施（予定）路線 3路線：延長 1.40km
 - 市道30477号線：延長 0.82km **（R7.10整備完了）**
 - 市道01007号線：延長 0.27km **（R7.6整備完了）**
 - 市道02021号線：延長 0.31km **（R8.1整備予定）**

自転車利用者のヘルメット着用率向上を目指し、動画やステッカー等による啓発活動を実施

目標1. 自転車利用環境の充実による安全性確保

Ⅱ. 自転車安全利用促進プロジェクト

14. 自転車ヘルメット着用の広報啓発

【「自転車ヘルメット着用啓発動画コンテスト」優勝作品による広報】

- 令和7年2月、静岡県警察などが開催した「自転車ヘルメット着用啓発動画コンテスト」において、沼津西高等学校の野垣真由佳さんと沼津署が共同制作した動画が優勝した。
- この動画を市HPにアップするとともに、市内商業施設の大型ビジョンで、「自転車月間」に当たる5月に放送した。

【「西浦めめ」ちゃんとコラボしたヘルメット着用推奨ステッカーの制作】

- 自転車利用者のヘルメット着用率向上のため、沼津市公認ご当地Vtuberの西浦めめちゃんとコラボし、ヘルメット着用推奨ステッカー（＃めめメットプロジェクト）を作製し、市内高等学校へ配布するとともに、街頭指導の際にも自転車運転者に配布した。

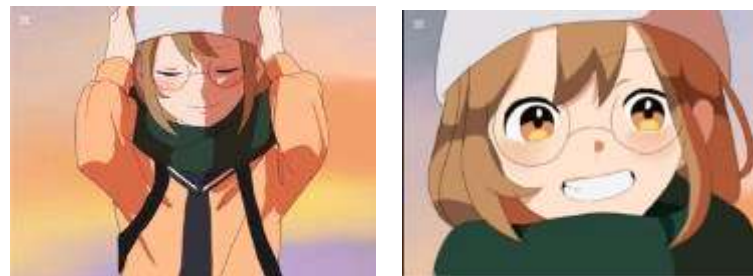
【「自転車まちなかロードマップ」（道路建設課作成）の周知】

- 自転車の安全に配慮した走りやすい道路の整備状況を図示した「自転車まちなかロードマップ」を道路建設課が作成した。
- 本マップを「高校生自転車マナー向上委員会（11校加盟）」を通じ各高等学校に周知し、高校生の通学経路の参考や交通安全教育の教材として活用している。

【考察】

- 自転車は誰でも気軽に乗ることができる反面、不安定で転倒すると怪我につながりやすい乗り物であり、自転車事故で亡くなった方の致命傷となった部位は、頭部が7割を占めている。
- ヘルメットを着用していない場合、着用している場合と比較して致死率は約3倍になるというデータもある。
- 大切な命を守るため、自転車乗車時は必ずヘルメットを着用することが非常に重要であることを、警察や交通安全協会等と連携し、様々な方法、ツールを用いて啓発していく必要がある。

ヘルメット着用啓発動画



「西浦めめ」ちゃんコラボステッカー



自転車まちなかロードマップ



令和 7 年度 第 1 回 沼津市自転車活用推進協議会

目標 2．移動の利便性向上による自動車への過度な依存の低減

【 Do 】 目標達成に向けた令和 7 年度の具体的取組

5月の自動車月間に合わせた広報ぬまづ・市公式SNSによる自転車利用の促進

目標2. 移動の利便性向上による自動車への過度な依存の低減

Ⅲ. 良好な都市環境の形成プロジェクト

Ⅳ. ヒト中心のまちづくり連携プロジェクト

12. 5月の自転車月間における自転車利用の啓発促進

5月が自転車の安全運転や利用促進を目的とした自転車月間であることに併せて周知に関する取組を実施した。

【広報ぬまづ5/1号における自転車特集】

沼津市内を自転車で走行しやすいように環境整備を進めていることや自転車を利用することによるメリット（環境、健康、まちの魅力発見など）を紹介するとともに、市外から来訪するサイクリストにとっても走りごたえのある魅力ある地域であることを紹介した。

また、自転車を利用する上で守らなければいけないルール、安全に走行するためのポイントなども掲載した。

【沼津市公式TikTokにおける啓発動画配信】

シェアサイクルを利用した市内のお出かけや、市内観光地をサイクリングで巡る様子をショート動画にして投稿した。

【考察・今後の展開】

- 沼津市の自転車利用環境、利用促進について引き続き情報発信を図り、自転車月間に関わらず必要な情報発信を続ける。
- 沼津市公式TikTokについては閲覧者が限られている。発信する情報に合わせた有効な情報発信方法について引き続き検討する。



沼津駅南口広場へのシェアサイクルポートの設置

目標2. 移動の利便性向上による自動車への過度な依存の低減

Ⅲ. 良好な都市環境の形成プロジェクト

Ⅳ. ヒト中心のまちづくり連携プロジェクト

17.公共用地・民地・鉄道駅等へのシェアサイクルやレンタルサイクルポートの設置検討 22.沼津市中心市街地まちづくり戦略と連動した自転車通行空間の検討と駐輪場の配置検討

【沼津駅南口広場へのシェアサイクルポートの設置】

独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）の保有する沼津駅南口の敷地において、沼津市・UR都市機構が新たに賑わいの拠点を計画・整備・運営していくこととなった。現在、シェアサイクルポートが12月の着工予定までの間暫定的に設置されており、拠点完成後にも改めて設置が検討されている。

整備される広場にはベンチ等が設置され、路線バスの待合としての役割も想定されることから、公共交通機関との連携の面でも活用を図っていく。



事業箇所図



整備後拠点イメージ（事業者からの提案）

令和 7 年度 第 1 回 沼津市自転車活用推進協議会

目標 3. 自転車の活用による健康の増進

【 Do 】 目標達成に向けた令和 7 年度の具体的取組

沼津市×富士市連携 ランバイクイベントの実施

目標3. 自転車の活用による健康の増進

Ⅴ. おでかけサイクリングプロジェクト

26. 自転車の魅力、楽しさ、健康効果の周知啓発およびイベント・講演会の実施

27. 地域の自転車クラブの創設促進

【内容】

- ・沼津市と富士市、富士市を拠点に活動する「レバンテフジ静岡」との3者の連携事業として、2歳～8歳の子どもの対象としたランニングバイクイベントを実施した。
- ・レースコースに加え、練習コース・レンタルバイクを用意し、経験のない子どもも参加できるイベントとした。

- ・会場：愛鷹広域公園内テニスコート、砂山公園プール駐車場
- ・日時：令和7年11月1日（土）、2日（日）
- ・参加者数：121人（2日間合計）

【考察】

- ・子どもたちにスポーツの機会を提供するとともに、これから自転車に乗り始める子どもたちに、自転車の楽しさを感じてもらいイベントになったと考える。

【今後の展開】

- ・今後も引き続きランバイクイベントを通して、自転車利用の普及啓発を図る。また、初心者が参加しやすいイベント内容を検討する。



沼津市×スルガ銀行サイクリングプロジェクト「ぬまぼた」

目標3. 自転車の活用による健康の増進

Ⅴ. おでかけサイクリングプロジェクト

26. 自転車の魅力、楽しさ、健康効果の周知啓発およびイベント・講演会の実施

【内容】

- ・沼津市と「自転車振興に関するパートナーシップ協定」を締結するスルガ銀行株式会社のサイクリングプロジェクトチームと協力し、沼津市内を自転車で巡りながら、沼津の街並み、自然、食などを楽しむことができる様々なコースを動画で紹介し、各SNSやHPで周知を行った。
- ・今年度は「ぬまぼた」と称し、「御朱印あつめ」「沼津の宝100選」「スイーツ・グルメ」「健康増進」を要素にして動画を制作した。

【考察】

- ・ポタリングをベースとし、様々な要素を取り入れた内容とすることで、普段自転車に乗らない人にも自転車に関心を持ってもらうきっかけを作ることができたと考える。

【今後の展開】

- ・今後も民間事業者と連携をしながら、自転車の魅力、楽しさ、健康効果の周知啓発を行う。



2025年10月21日 めまづサイクリング
「沼津市×スルガ銀行サイクリングプロジェクト」のご紹介

令和 7 年度 第 1 回 沼津市自転車活用推進協議会

目標 4 . サイクルツーリズム推進による交流人口の拡大

【 Do 】 目標達成に向けた令和 7 年度の具体的取組

サイクルボール seasoVI かのいちの実施

目標4、サイクルツーリズム推進による交流人口の拡大

VI、魅力的なサイクリング、サイクルツーリズム創出プロジェクト

28.広域連携によるサイクルルートのブランド化の推進

29.地域資源を活かした多彩なサイクルコース・観光プランの造成による誘客の促進

【内容】

- ・サイクリングアプリを使い、日本全国の名だたるコースの走破を目指す期間型周遊イベント「サイクルボール」の1コースとして、狩野川周辺地域を巡るコース「かのいち」を4月26日～翌2月1日まで実施。
- ・イベント期間中の参加者数 318人（10/26時点）
- ・沼津市・伊豆市・伊豆の国市で構成する「狩野川周辺サイクル事業推進協議会」が実施しており、広域連携の取り組みとなっている。
- ・距離94.2キロのメインコースのほか、初心者でも安心してチャレンジできるショートコースを3市で1つずつを用意。
- ・6月29日には、メインコースと一緒に走るチャレンジDAYを実施。

【考察】

- ・全国のサイクリストが本イベントに参加し、SNSに投稿することで本市の魅力発信や誘客の促進につながっている。
- ・翌年度以降も魅力あるイベントを開催し、更なるサイクルツーリズムの推進に努めていきたい。

【今後の展開】

- ・周辺の市町村と協力しながら、サイクルツーリズムに係る交流人口の拡大を図る。



イベントにおけるブース出展

目標4、サイクルツーリズム推進による交流人口の拡大

VI、魅力的なサイクリング、サイクルツーリズム創出プロジェクト

28.広域連携によるサイクルルートのブランド化の推進

33.国内外への情報発信の強化

【内容】

- ・沼津市・伊豆市・伊豆の国市で構成する「狩野川周辺サイクル事業推進協議会」が狩野川周辺のサイクル環境をPRするため、「CYCLE MODE RIDE OSAKA 2026」におけるジテンシャ×旅エリアでブース出展を行う。

【考察】

- ・大阪で開催され、昨年度約1万2000人が参加したイベントで伊豆・狩野川エリアのサイクル環境をPRすることで、県外からのサイクリスト誘客につなげることができると考える。

【今後の展開】

- ・ブース出展をきっかけにどの程度の方に来訪してもらえたか、今後アンケートなどを実施し効果測定を行っていく。

